

バランスシート(貸借対照表)

(平成21年3月31日現在)

資産の部(市や関係団体で持っている財産)			負債の部(借金や引当金など将来の負担)				
	普通会計		連結会計		普通会計		連結会計
	平成20年度末	平成19年度との比較増減			平成20年度末	平成19年度との比較増減	
①公共資産 道路や学校など、市で作った施設などの財産	1,678億7,000万円	6億8,000万円	2,300億2,000万円	①固定負債 翌々年度以降に支払うべき借金の残高や退職手当引当金(※4)など	526億5,000万円	△3億2,000万円	852億1,000万円
②投資など 出資金や目的のある基金などの財産	84億6,000万円	△6,000万円	112億円	②流動負債 翌年度に支払うべき借金の返済など	52億3,000万円	△1億7,000万円	79億円
③流動資産 現金・預金や財政調整基金などの財産	63億9,000万円	6億1,000万円	110億3,000万円	負債合計	578億8,000万円 (62万円)	△4億9,000万円	931億1,000万円 (100万円)
資産合計	1,827億2,000万円 (197万円)	12億3,000万円	2,522億5,000万円 (272万円)	純資産の部(国や県の補助金やこれまでの負担)			
				国や県の補助金やこれまでの負担	1,248億4,000万円	17億2,000万円	1,591億4,000万円
				純資産合計	1,248億4,000万円 (135万円)	17億2,000万円	1,591億4,000万円 (172万円)
				負債・純資産合計	1,827億2,000万円 (197万円)	12億3,000万円	2,522億5,000万円 (272万円)

※()内の額は、平成21年3月31日現在の住民基本台帳を元に算出した、市民1人当たりの金額です。

※連結会計の数字は、連結会計内部の収入と支出を相殺消去処理しています。

市の家計簿を公表します

市では、平成20年度決算に基づきバランスシート(貸借対照表)と行政コスト計算書を作成しました。

今回は、決算や会計処理を別々に行っている特別会計などを加えた「連結会計」の数字も、普通会計に合わせて公表します。

くわしくは 財政課 財政係 ☎ 21-5162

◆**まとめ**◆
普通会計の資産合計は、前年度に比べ12億3千万円増加し、1,827億2千万円となりました。一方で、負債合計は4億9千万円減少し、578億8千万円。純資産合計は、17億2千万円増加し、1,248億4千万円となりました。

◆**負債の部**◆
普通会計は、職員数の減少により退職手当や賞与の引当金が大きく減少し、市債などの残高も減少したことから、前年度に比べ4億9千万円減少し、578億8千万円となりました。

◆**純資産の部**◆
普通会計は、公共資産や流動資産の増加に伴い、資産を作るために交付された国・県からの補助金や市税・地方交付税等の一般財源などが増加したことから、17億2千万円増加し、1,248億4千万円となりました。

◆**連結会計**◆
連結会計は、1,591億4千万円となりました。なお、資産に対する純資産の割合は、普通会計が68.3%で連結会計の63.1%よりも高くなっています。

◆**用語解説**◆
※1 バランスシート：市が行政サービスを提供するために保有している財産と、財産をどのような財源を使って整備してきたかを対照的に表示したものです。
※2 連結会計：普通会計に、特別会計(国民健康保険事業会計、水道事業会計など)と土地開発公社や第3セクターなど関係団体の会計を加えたもの。
※3 引当金：将来、特定の費用や損失をあらかじめ見積もることができるとき、その支出や損失に備えて計上できるもの。
※4 退職手当引当金：全職員が年度末に退職すると仮定した場合の退職金総額。

◆**資産の部**◆
①公共資産(市で整備した道路や学校、公園などの財産)
普通会計は、クリーンセンターの建設や鬼怒川・川治地区の地域再生事業での施設整備などにより、前年度に比べ6億8千万円増加し、1,678億7千万円となりました。
②投資など(出資金や基金など)
普通会計は、地域再生事業推進基金の取り崩しなどにより、前年度に比べ6千万円減少し、84億6千万円となりました。
③流動資産(現金・預金や財政調整基金など)
普通会計は、前年度に比べ6億1千万円増加し、63億9千万円となりました。63億9千万円増加し、63億9千万円となりました。

◆**負債の部**◆
①固定負債
普通会計は、職員数の減少により退職手当や賞与の引当金が大きく減少し、市債などの残高も減少したことから、前年度に比べ4億9千万円減少し、578億8千万円となりました。

◆**純資産の部**◆
国や県の補助金やこれまでの負担
普通会計は、国や県の補助金やこれまでの負担が1,248億4千万円となりました。

◆**負債・純資産合計**◆
普通会計は、負債が2,522億5千万円、純資産は1,248億4千万円となりました。

◆**行政コスト計算書**◆
次ページでは、行政コスト計算書について説明します。

◆**資産の部**◆
①公共資産(市で整備した道路や学校、公園などの財産)
普通会計は、クリーンセンターの建設や鬼怒川・川治地区の地域再生事業での施設整備などにより、前年度に比べ6億8千万円増加し、1,678億7千万円となりました。
②投資など(出資金や基金など)
普通会計は、地域再生事業推進基金の取り崩しなどにより、前年度に比べ6千万円減少し、84億6千万円となりました。
③流動資産(現金・預金や財政調整基金など)
普通会計は、前年度に比べ6億1千万円増加し、63億9千万円となりました。63億9千万円増加し、63億9千万円となりました。

